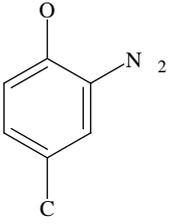


## 指针对象物質の基本情報

## ① 1-ブロモブタン

構造式	Br-CH <sub>2</sub> -CH <sub>2</sub> -CH <sub>2</sub> -CH <sub>3</sub>	
別名	臭化ブチル、臭化ノルマルブチル	
CAS No.	109-65-9	
物理学的性質	分子量	137.02
	比重	1.2758 (20℃)
	融点	-112℃
	沸点	101.3℃
	蒸気圧 (25℃)	41.97mmHg
	溶解性 (水・20℃)	0.0869mg/L
	分配係数 (logPow)	2.75
	引火点	18℃ (密閉式)
	常温での性状	無色の液体であり、特徴的な臭気がある。 水に不溶、アルコール、エーテル、クロロホルムに可溶。
生産量	100～1,000 t (平成 19 年度)	
用途	医薬・農薬中間体、塩ビ安定剤原料として使用されている。	
労働安全衛生法による規制の現状	施行令別表第 1 危険物 (引火性の物) 「変異原性が認められた化学物質」	
がん原性評価	IARC : 評価なし 日本産業衛生学会 : 評価なし ACGIH : 評価なし	
国が実施したがん原性試験等の結果概要 (吸入)	ラットでは、雌雄とも腫瘍の発生増加は認められず、ラットに対するがん原性はないと推論する。 マウスでは、雄の肺に細気管支-肺胞上皮癌の発生増加が認められ、雄に対するがん原性を示す明らかな証拠である。雌では腫瘍の発生増加は認められなかった。	
変異原性の有無、強さ	微生物を用いる変異原性試験 陽性 (ガス状物質としての試験) 陽性の最小濃度 0.05% [TA1535、S9(+)]	
その他の主要な有害性	吸入により頭痛、めまい、貧血、倦怠感がある。 皮膚や眼を刺激する。	
ばく露限界	-	
資料出所	1-ブロモブタンのモデルMSDS、厚生労働省「職場のあんぜんサイト」 「16112の化学商品」化学工業日報社(2012) 「化学物質の製造・輸用量に関する実態調査 (平成 19 年度実績) 確報」 経済産業省(2009) 「労働安全衛生法有害性調査制度に基づく既存化学物質変異原性試験データ集 補遺 4 版」(社)日本化学物質安全・情報センター(2008)	

② 2-アミノ-4-クロロフェノール

構造式		
別名	4-クロロ-2-アミノフェノール、2-ヒドロキシ-5-クロロアニリン	
CAS No.	95-85-2	
物理学的性質	分子量	143.58
	比重	データなし
	融点	140~141℃
	沸点	データなし
	蒸気圧 (25℃)	0.00141mmHg
	溶解性 (水・20℃)	0.3g/100mL
	分配係数 (logPow)	1.24
	引火点	170℃
	常温での性状	無色～茶色の結晶性粉末である。特徴的な臭気がある。
輸入量	500 t (平成 22 年、推計)	
用途	医薬品、写真薬、染料中間物として使用されている。	
労働安全衛生法による規制の現状	「変異原性が認められた化学物質」	
がん原性評価	IARC：評価なし 日本産業衛生学会：評価なし ACGIH：評価なし	
国が実施したがん原性試験等の結果概要 (経口 (混餌))	<p>ラットでは、雄に前胃の扁平上皮癌と扁平上皮乳頭腫及び膀胱の移行上皮癌の発生増加が認められ、雄に対するがん原性を示す明らかな証拠である。雌には前胃の扁平上皮乳頭腫の発生増加が認められ、雌に対するがん原性を示す証拠である。</p> <p>マウスでは、雄に前胃の扁平上皮乳頭腫の発生増加が認められ、雄に対するがん原性を示す証拠である。雌では腫瘍の明らかな発生増加は認められなかった。</p>	
変異原性の有無、強さ	<p>微生物を用いる変異原性試験 陽性 最大比活性値=1.29×10<sup>2</sup>revertants/mg [TA100、S9(+)]</p> <p>ほ乳類培養細胞を用いる染色体異常試験 陽性 SD<sub>20</sub>=0.00092mg/ml [CHL、S9(-)]</p>	
その他の主要な有害性		
ばく露限界	—	
資料出所	<p>2-アミノ-4-クロロフェノールのモデルMSDS、厚生労働省「職場のあんぜんサイト」</p> <p>「16112の化学商品」化学工業日報社(2012)</p> <p>「労働安全衛生法有害性調査制度に基づく既存化学物質変異原性試験データ集補遺4版」(社)日本化学物質安全・情報センター(2008)</p>	